

ドイツ紙芝居講座

二〇一六年十月二〇日、ドイツ・フランクフルト郊外にあるベンスハイムで、紙芝居講座を開催。「子どもと家族のためのカール・キューベル財団」が、ベンスハイム市立図書館に紙芝居作品十二点と舞台を寄付するタイミングで、IKAJAのメンバーがドイツを訪れ、文化としての紙芝居を伝えました。主な対象は幼児教育関係者で、参加者のほとんどが初めて紙芝居を目にする人たちでした。そして講座終了後もみなその場に残り、紙芝居の可能性について話し合っていました。急増する難民や移民の子どもたちの統合教育に力を発揮するものとして、紙芝居には大きな期待がかけられています。

十五周年記念講座でも

IKAJAでは毎年、全世界に住む二百数十名の海外会員にむけて十一月の紙芝居講座の案内を、英語で送っています。その効果もあって、海外からの参加は年々増え、昨年はマレーシア、中国、アメリカ、ペルー、メキシコ、オランダから絵本作家、編集者、英語教師、学生、紙芝居実演家など年齢も立場もさまざまな方の参加がありました。今後、外国語での対応が必要な場面が増えてくると思います。力を貸してくださる方があれば、ぜひ事務局までご連絡を。

*IKAJAとは、紙芝居文化の会の英語名(The International Kamishibai Association of Japan)の略称です。

